

被爆の国から

オバマ大統領への
メッセージ

8

原爆の怖さを知った日本は、平和利用に努めてきました。核技術を手にする国には品格が求められています。

森一久

被爆した広島市の少女の手記を集めたベストセラー「原爆の子」(岩波書店、1951年)で、何人かが「原子力の平和利用」に触れていることはあまり知られていない。たとえば、当時小学2年だった田辺俊彦君はこう書いた。〈原子力はおそろしい。(略)人間はほろびてしまう。でも、よいことに使えば使うほど、人類が幸福になり、平和がおとずれてくるだろう〉

「原爆の子」の約束

業会議副会長の森一久さん(83)は、戦後しばらくしてこの本を手にする。そして、平和利用は原爆の子との約束だと思いついた。

投下直前の8月3日、京都帝大理学部物理学科の学生だった森さんは、疎開せずに広島市内にいた両親が心配で帰郷した。6日午前2時、医師として近くの小学校に詰めていた父が帰宅。母と3人、配給の砂糖でお茶を飲んだのが最後となった。午前8時15分、爆心地から1キロの倒壊した家屋の下で助かったのは森さん一人。翌日、

品格持ち平和利用を

延びたのは奇跡だった。翌年になって大学に戻り、恩師である湯川秀樹博士の下で素粒子論を修めて卒業した。戦後何かに突き動かされるように、原子力発電と核燃料サイクル推進の中心に入っていく。大手出版社に入社して科学雑誌の編集をしなが、物理学者ら

と平和利用について勉強会を重ねた。産業界が原子力に前向きだという話を聞きつけて抗議にいくうちに、56年

と平和利用について勉強会を重ねた。産業界が原子力に前向きだという話を聞きつけて抗議にいくうちに、56年

基本法に「民主・自主・公開」の平和利用3原則を盛り込むよう強く求め、政府の対米交渉や日本の原子力研究の拠点となる茨城県東海村への視察に同行もした。

04年、同会議の副会長を退任するまでの半世紀、原子力にかかわってきた。日本の原子力政策は、両親を殺され自らも死の瀬戸際に追い込まれた被爆者を真ん中に抱えてきたことになる。森さんには恩師への思いもある。「日本人の心が原爆開発に向かわないか、一番心配していたのが湯川先生でした。核に不感症にならないかと、いま世界では「原子カルネサンス」が起き



日本の原子力政策を振り返る森一久さん(東京都港区、小出洋平撮影)

力政策は、両親を殺され自らも死の瀬戸際に追い込まれた被爆者を真ん中に抱えてきたことになる。森さんには恩師への思いもある。「日本人の心が原爆開発に向かわないか、一番心配していたのが湯川先生でした。核に不感症にならないかと、いま世界では「原子カルネサンス」が起き

【滝野隆浩】

核兵器廃絶へ日本は主導を

平和市長総会閉会

長崎市で過去最多の134都市(18カ国)の市長らが参加して開かれた第7回平和市長会議総会は10日、核兵器廃絶に向けた多国間協議などを求める「ナガサキアピール」を採択し、閉会した。次回総会は13年に広島市で開催される。アピールでは核拡散防止条約(NPT)再検討会議や国総会などを通し、核

気温と湿度

	最高(平年)	最低(平年)	湿度	
東京	28.6(31.1)	25.0(24.4)	78	曇
札幌	30.9(26.5)	19.4(19.0)	59	晴
青森	25.7(28.1)	21.3(19.7)	83	曇
盛岡	23.8(28.7)	22.0(19.6)	93	雨
仙台	23.3(28.3)	22.5(21.4)	96	雨
秋田	27.3(28.9)	23.3(21.3)	88	雨

(最高は15時まで、最低は前日21時から9時まで。天気・湿度は15時現在)